

防災塾 実施報告書

砧総合支所地域振興課
祖師谷まちづくりセンター

- (1) 実施日 令和5年3月15日(水曜日) 18時30分～20時30分
- (2) 場所 祖師谷まちづくりセンター 活動フロア
- (3) 参加人数 13人
祖師谷地区身近なまちづくり推進協議会部会員11人
※構成団体：11町会自治会(2名欠席)、青少年地区委員会、
祖師谷昇進会商店街
祖師谷まちづくりセンター2名
- (4) テーマ
町会・自治会、商店街の災害時の安否確認や情報収集、連絡体制について
- (5) 実施内容
防災部会員から各団体の状況について報告及び情報共有

事務局より

- 今年度、東京都において首都直下型地震の被害想定の見直しがあった。今後、地域防災計画、地区防災計画の修正が行われることを想定し、地区課題の一つである「安否確認、情報収集」やその他の課題について、身近なまちづくり推進協議会防災部会の場で、地区の各町会・自治会の取り組み状況について、ご報告いただき、情報共有を図りたい。

各団体からの報告

- 祖師谷第2自治会
 - ・ 男性の手が少なく、役員、理事(他自治会の班長)の高齢化も課題。
 - ・ 区より配備される蓄電池について、災害時のスマホの充電等に使用できればと考えている。
 - ・ 災害時にD型ポンプをスムーズに使用できるように、毎月1回機器を稼働させている。
 - ・ 毎年、自治会より新規の理事に消火器を配付し災害に備えるとともに防災意識の向上を図る。

- 祖師谷第3自治会
 - ・ 昨年東京都の補助金を使って、自治会で「安否確認カード」を作成した。10月には自治会員あて説明を行い、今年に入り1月17日、3月11日に掲出訓練を行った。説明会等の成果もあり、掲出した家庭が全体の70%を超え80%近くであった。次回は9月に実施する予定である。今後も年3回の訓練を継続する予定である。
 - ・ 「わが家の防災マップ」という自治会内の消火栓等の位置が入っている地図を作成し配付した。自治会員自身がその地図に自宅や友人宅の位置、緊急連絡先、備蓄品等が記入できるようになっているため、各自で防災について改めて意識する機会となっている。

- 祖師谷第4自治会（当日欠席・事前報告）
 - ・ 災害時の連絡手段である簡易無線機について、広域通信訓練を毎年実施している。3月10日には、地区連事務局を交えて、充電量を節約するため送信出力をLOWに切り替えての訓練を行い、事務局との交信は問題なく実施できた。今年度は、祖師谷地区町会自治会連合会として、全町会自治会に簡易無線機を整備したこともあり、このような自治会内での訓練を踏まえて、今後地区内で連携してより効果的に交信できるように、よい方法があれば提案するなどしていきたい。

- 祖師谷第5自治会

防災士による講演会は毎年実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により自治会の防災訓練は中止となっている。今年は実施したいと考えている。

- 祖師谷第6自治会
 - ・ 昨年度の防災塾の講演会で事例のあった、防災協力員制度を導入し、初年度として30名を募集した。今後は、自治会役員と防災協力員とで自治会内の防災活動に取り組んでいく。
 - ・ 自治会の防災訓練を成城消防署千歳出張所で3回実施し、機器の操作訓練等を防災協力員等多数の方に経験してもらった。スタンドパイプ操作は、消火栓を開けてスタンドパイプを設置し水を出すまでを、参加者全員に体験してもらった。
 - ・ 安否確認カードを自治会で作成し訓練を行った。災害時の安否確認の訓練になるとともに、訓練で出すカードをいろいろな方が見ることで、参加者以外の方の防災意識の向上にもつながることを感じた。

- 祖師谷千歳台自治会
 - ・ コロナ禍以降今年度より避難所運営訓練が再開されたが、参加者が少ない。今後実施される観桜会やたけのこ堀などの行事の際、防災につ

いて話し訓練参加者を増やしていきたい。

- ・ 自治会内でミニ開発により敷地面積の小さい家が増えていて木造家屋の密集が気になっている。若い世代にも行事などで声掛けをし防災意識を高めてもらうよう働きかけたい。

➤ 祖師谷住宅自治会

- ・ 棟ごとに1~2名の棟長がいる。
- ・ 耐火、耐震建物のため住民の危機感が薄く、自治会の防災訓練は参加人数が少ない上に新しい参加者もほとんどいないのが現状。
- ・ 防災訓練は毎年行っているが、自治会内で防災について話し合う機会がない。何かやるべきであると考え、どのようにしたらよいかお知恵を拝借したい。

→建物が賢固であり倒壊の心配がないのであれば、災害時は在宅避難を推奨する。在宅避難にあたって、日ごろから備蓄品の準備や家具の転倒防止措置を施すことなどが必要である。在宅避難のすすめのチラシは現在自治会内回覧をしているので、よく見てもらうのと同時に、家具の転倒防止の補助金のチラシなどを配付したらどうか。転倒防止器具設置にあたっては建物所有者の承諾が必要である。

➤ 藤自治会

- ・ コロナ禍で特別な取り組みはできていないが、今年度は、防災部会内で教えてもらった防災物品のあっせん販売の情報から、自治会内で希望を募り消火器の購入をあっせんした。

➤ 千歳台睦町会

- ・ まずは自分が助かることを考え、次は家族が優先である。在宅の時間は1日の3分の2にあたるので、まずは家において災害にあったことを想定し、できることから進めていく。
- ・ 危険なブロック塀や折れそうな木の場所などを入れた自治会内のハザードマップを作ろうという動きもある。
- ・ 被害状況の確認のため、ドローンを使用できないか検討し、小さいドローンを試験的に飛ばしてみたが、風に飛ばされてうまくいかなかった。大きいドローンは、国や地権者の許可などが必要なため実現できなかった。

➤ 千歳台南会

- ・ 安否確認カードについては、祖師谷地区内で先行して実施されている自治会の成果を参考にして導入を検討していきたい。
- ・ 3年ぶりに「桜を見る会」が開催されるので、町会の活動や防災のPRをしていきたい。

- ・ 千歳台南会、千歳台睦町会、パークハウス管理組合の三者共催で行っていた防災訓練について、2019年以降実施できていない。今年は関東大震災から100年という節目の年なので、参加することにより防災意識を高めてもらえるような訓練を実施したい。加えて防災機材の訓練も行う予定である。(9月10日地域防災のつどい)
 - ・ 情報収集のために地区連で整備した簡易無線機については、ハード面は充実したが、いかに活用するかソフト面の訓練が追いついていないので今後地区全体で意見を出し合いながら進めていきたい。
- 祖師谷昇進会商店街振興組合
- ・ 桜まつりが3年ぶりに開催されるが、手伝いが数名という現状である。同様に昨年開催された簡易無線機を用いた「祖師谷地区地域防災の集い」の参加者も1~2名であった。コロナ禍ということもあり防災訓練も行えていない状況である。

(6) 事務局からの報告

- ・ 地区防災計画の課題については、防災部会等の場で今後も継続的に検討する。また、次年度以降の地区防災計画の修正に向けても、今回の議論を踏まえて今後検討を進めていく。
- ・ 昨年度末より防災部会にて内容を検討してきた「在宅避難のすすめ」のチラシについて、ようやく完成した。すでに3月の町会長会議で説明し町会回覧の依頼済みである。今後は、避難所運営訓練や町会自治会の防災訓練などでも配付したい。初版ということもあり数量は少ないが、来年度以降も意見を反映させながら増刷し、できるだけ多くの方に配付していきたい。
- ・ 地区連で整備した簡易無線機について、令和5年度は、無線機本体の機能維持や練度向上の目的で地区全体で数回訓練を予定している。令和5年5月27日(土)、9月30日(土)、その他

(7) 成果物

- ・ 「在宅避難のすすめ」チラシ

在宅避難のすすめ

『いざ！』というときに、避難所に行かなくても済むように「**在宅避難**」や「**縁故避難**」ができるように準備しておきましょう！

「**在宅避難**」とは、自宅で避難生活を送ることです。

「**縁故避難**」とは、家族や親戚、友人の家で避難生活を送ることです。

～日頃からできる災害への備え～

家具の固定や片付け



- ・耐震診断
- ・家具転倒防止
- ・家具の配置の見直し など

食料や水等の備蓄



- ・食料は最低3日分(できれば1週間分)を準備
- ・水は1人1日3ℓ必要
- ・備蓄を少しずつ入れ替えるローリングストックなら比較的簡単！
- ・消火器や感震ブレーカー等の備え

情報収集方法の確認

- ・ラジオ エフエム世田谷(FM83.4MHz)
- ・区ホームページ
- ・区ツイッター
- ・メール配信
- ・災害用伝言板 など

災害時の情報収集方法について

区ホームページ



※ただし、自宅等が危険な時はすぐに避難所へ！

祖師谷地区の避難所については裏面へ➡

祖師谷地区身近なまちづくり推進協議会 防災部会
【事務局】世田谷区 祖師谷まちづくりセンター 電話 03-3482-2201

～避難所について～

①一時(いつとき)集合所

自宅などが危険になった時、一時的に集合する場所。

②広域避難場所

一時集合所などが危険になった時、避難する場所。

③指定避難所

自宅での居住が困難な時や二次災害を受ける可能性がある時に、一時的に生活をするための施設。

【祖師谷地区の指定避難所】

避難所名	対象区域 ※主に祖師谷地区管内の区域を掲載
祖師谷小学校	祖師谷1丁目4・6～37、祖師谷2・3・4丁目、祖師谷5丁目1～5・16～27・32、千歳台1丁目17、千歳台2丁目3～19
塚戸小学校	祖師谷5丁目28～38、祖師谷6丁目、千歳台2丁目15・34～46 他
千歳小学校	祖師谷5丁目6～15・37～48 他
山野小学校	千歳台1丁目1～32・36～41、祖師谷1丁目1～5・18～21 他
千歳台小学校	千歳台1丁目33～35、千歳台2丁目1・2・5・20～35 他
千歳中学校	千歳台6丁目15～17

※避難所について詳しくは区のホームページをご覧ください。

防災塾 実施報告書

砧総合支所地域振興課
成城まちづくりセンター

I. 実施日時 令和4年10月13日（木曜日）9：00から16：30

II. 場 所

- ・ 東京都復興記念館
東京都墨田区横網2-3-25
- ・ 東京臨海広域防災公園（そなエリア東京）
東京都江東区有明3-8-35

III. 参加人数 20人

- ・ 日赤奉仕団成城分団
- ・ 成城地区区民防災会議
- ・ 避難所運営委員会
- ・ 成城自治会災害プロジェクトチーム
- ・ 成城まちづくりセンター

IV. テーマ 「発災後72時間を地区の力で乗り切る」
防災関連施設を見学し、過去の教訓からの学びや体験学習を通じて、被害を最小限に留めるための対策や知識を身につけ、地区防災力向上につなげる。

V. 実施内容

- 1 東京都復興記念館でのガイドによる施設見学
関東大震災当時の写真や実物資料の展示を見学することで、改めて過去の教訓から学び、地区での防災力を高めることの重要性を再認識した。
- 2 そなエリア東京でのガイドによる体験学習ツアー
 - ・ 首都直下72h TOUR
発災後のまちを再現したジオラマの中を移動し、タブレット端末を使用し、発災時にとるべき行動についてのクイズに答えながら、「地震発生後の72時間を生き抜く」ための知恵を学ぶ体験学習ツアーに参加した。
 - ・ 防災学習
身近なものを活用した防災グッズや事例から学ぶ自助の知恵など、見たり触れたりしながら学習した。

3 当日の様子

<復興記念館>



<そなエリア東京>



防災塾アンケート用紙（とりまとめ）

日付	令和4年10月13日
地区	成城

1-1) ご自身について（性別）		1-2) ご自身について（年齢）								
	①男性	②女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
数	4	13			1		2	5	7	2
1-3) ご自身について（職業）										
	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦	⑦無職	⑧その他		
数	1				1	11	3	1		
2 今まで参加した防災塾の開催年度について										
	①令和元年度（平成31年度）以前		②令和2年度	③令和3年度						
数	7		4	5						
3 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。										
	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない					
数	7	6		2						
4 上記の「3」の理由をご自由にご記入ください。										
会議に参加した回数が少ない。										
実際に生き延びる方法を見ることは、意見交換や議論以上のものがあります。今後の課題としては、見知ったことをいかに周囲に広めるか、いかに実										
一人なので、玄關に一応リュックに必要と思うものを用意しておいている。										
留学時代の内容が現時点のニーズに合わせて工夫されていて、勉強になった。										
5 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと										
					数					数
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。					3	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。				3
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。					4	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。				2
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。					8	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。				5
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。					7					
6 今後の希望する「防災塾」の進め方について										
					数					数
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論					6	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明				8
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論					1	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演				7
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論					2	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合				5
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験					9	⑨その他（「生命を守った後の生活をいかに”生きる力”につなげるかが大事だと思います。」）				1
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介					5					

7 地区防災計画制度がつけられたが、本制度の内容はご存知ですか。					
	数		数		
①地区防災計画作成のガイドラインを読んだことがある。	6	④言葉は聞いたことがあるが詳しくは知らない。	5		
②他所の地区で作成された地区防災計画を読んだことがある。	3	⑤全く知らない。			
③防災塾で説明を聞いたことがあり、ある程度は知っている。	3				
8 平成29年3月より、地区防災計画を区HPに掲載していますが、ご存知ですか。					
	①知っていた	②知らなかった			
数	4	8			
9 地区防災計画の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと					
	数		数		
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理	8	④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	3		
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	3	⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	3		
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声かけと対策方法に関する話し合い	5	⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	6		
＜その他＞防災に関心の低い住民にも、もっと本日のような体験の機会を提供していけるとよい。					
10 防災塾に継続して参加したいと思いますか。					
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	4	8			
11 「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。					
参加したことがなかったのでこれから防災について考えていこうと思います。					
今回色々な情報を得てとても勉強になりました。					
素晴らしかった。知識を広げるために継続できればよい。					
物見遊山の部分は本来不要。					

防災塾 実施報告書

砧総合支所地域振興課
成城まちづくりセンター

I. 実施日時 令和5年2月2日（木曜日）10時～12時

II. 場 所 砧総合支所1階 多目的ホール

III. 参加人数 25人
・ 成城地区区民防災会議委員
・ 各避難所運営委員
・ 成城自治会災害プロジェクトチーム

IV. テーマ 「成城地区 合同避難所運営委員会」

《ねらい》

地区の防災に関わるメンバー同士の意見交換を通じて、地区全体の防災力向上につなげるとともに、全ての住民に向けた啓発を効率的に進めるための方策を検討する。

V. 実施内容

1 開会

2 挨拶

（1）成城地区区民防災会議 会長 岩波 桂三

（2）砧総合支所地域振興課 課長 河野 雄治

3 第19回地域の防火防災功労賞授与（成城消防署より）

・ 成城地区自治会連合会による「安否確認標識掲示訓練」が受賞

4 事前対策について

・ 「成城地区区民防災活動図」をもとに、在宅避難推奨のための普及啓発等について説明。

5 直後対策について

・ 成城自治会災害プロジェクトチームの活動状況報告。

6 事後対策について

- ・各学校避難所より活動状況報告。

7 グループディスカッション

- ・3校の避難所運営委員を担当班ごとにグループ分けし、情報共有や意見交換を行った。

8 発表

- ・主な意見は以下のとおり。

○避難所開設後、特に傷病者対応などを検討する際には、学校の教育活動への影響を考えながら慎重に行う必要がある。

○各校のマニュアル策定状況や課題について共有することができ、今後の検討にもつなげられる貴重な機会となった。

○在宅避難推奨のため、家庭での備蓄や近隣住民とのつながりなど、より効果的な啓発ができるとよい。

9 質疑応答

10 今後の予定

11 閉会



防災塾アンケート用紙（とりまとめ）

日付 令和5年2月2日
地区 成城

1-1) ご自身について（性別）		1-2) ご自身について（年齢）								
	①男性	②女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
数	4	11				2	5	4	3	
1-3) ご自身について（職業）										
	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦	⑦無職	⑧その他		
数	3	1	2			6	1	1		
2 今まで参加した防災塾の開催年度について										
	①令和元年度（平成31年度）以前			②令和2年度	③令和3年度					
数	6			4	9					
3 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。										
	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない					
数	3	8	1	2						
4 上記の「3」の理由をご自由にご記入ください。										
グループディスカッションでは、商店街の方と顔見知りになれたこと。										
各避難所委員の活動内容が聞けたこと。										
避難所開設の流れ、対応の確認、トリアージがある避難所での教育活動の兼ね合いについても考えることができた。										
同じテーブルの方とは意見交換できたが他のグループの方とは話ができなかった。										
意見交換はできたが、争点が大きすぎて細かい議論まではできないようでした。										
会議中に、それらについて話すことはなかったと思う。										
課題の共有ができたこと。進捗状況が聞けると安心して自分たちのペースで進めば良いと認識できた。この情報、活動を広く住民に広めていくことが										
他地域の現状を知ることができた。										
5 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと										
		数		数						
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。		3	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。							1
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。		1	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。							5
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。		5	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。							6
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。		8								
6 今後の希望する「防災塾」の進め方について										
		数		数						
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論		7	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明							3
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論		3	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演							8
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論		2	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合							3
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験		7								
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介		6	⑨その他（「生命を守った後の生活をいかに”生きる力”につなげるかが大事だと思います。」）							

7 地区防災計画制度がつけられたが、本制度の内容はご存知ですか。					
	数		数		
①地区防災計画作成のガイドラインを読んだことがある。	4	④言葉は聞いたことがあるが詳しくは知らない。	5		
②他所の地区で作成された地区防災計画を読んだことがある。	4	⑤全く知らない。			
③防災塾で説明を聞いたことがあり、ある程度は知っている。	3				
8 平成29年3月より、地区防災計画を区HPに掲載していますが、ご存知ですか。					
	①知っていた	②知らなかった			
数	6	8			
9 地区防災計画の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと					
	数		数		
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理	5	④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	1		
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	4	⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	1		
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声かけと対策方法に関する話し合い	5	⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	4		
＜その他＞防災に関心の低い住民にも、もっと本日のような体験の機会を提供してけるとよい。					
10 防災塾に継続して参加したいと思いますか。					
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	3	11			
11 「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。					
班ごとに分かれて話し合えたことがよかったです。					
より多くの住民に知らせるにはどうするのか。					

防災塾 実施報告書

砧総合支所地域振興課
船橋まちづくりセンター

- (1) 実施日 令和4年2月17日(金曜日) 午前10時～12時
- (2) 場所 船橋まちづくりセンター 活動フロアー1
- (3) 参加人数 25人(区民20人、スタッフ7人(講師含む))
- (4) テーマ
 - i 在宅避難について
- (5) 実施内容
 - ① 開会あいさつ
砧総合支所地域振興課長 河野 雄治
 - ② 講演
講師 世田谷防災 NPO アクション 代表 宮崎 猛志 氏
 - ・『避難行動』と『避難生活』の違い
 - ・災害救助法での救助対象者の定義
 - ・避難方法の選択肢の確保
 - ・対策による減災・被害軽減効果
 - ・世田谷区の被害想定
 - ・災害シナリオと被害の様相
 - ・在宅避難に必要な備え(建物の耐震化、家具の転倒防止、脱出・安否確認、停電・断水への備え)
 - ・避難所の在り方
 - ③ 質疑応答

(6) 成果物



防災塾アンケート用紙（とりまとめ）

日付 令和5年2月17日
地区 船橋

1-1) ご自身について（性別）

	①男性	②女性	③未記入等
数	7	10	1

1-2) ご自身について（年齢）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
数			1	4	1	5	5	2

1-3) ご自身について（職業）

	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦（主夫）	⑦無職	⑧その他
数	1		1	2	5	4	5	3

2 今まで参加した防災塾の開催年度について

	①令和元年度（平成31年度）以前	②令和2年度	③令和3年度
数	4	4	4

3 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。

	①十分にできている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない
数	3	8	2	4	

4 上記の「3」の理由をご自由にご記入ください。

- ・座学の時間が主だった。数人ずつでの意見交換の時間があれば解消されるのでは。
- ・意見交換、議論の時間が残念ならなかった。
- ・意見交換、議論の時間がいつも無い。足りない。1年に1回ではあまり力にならない。
- ・対象者を拡げて、各々の対面での意見が伺いたい。受け身で申し訳ないが、いろいろと勉強して参りたい。
- ・質疑応答での意見、またそれに対する回答でより深い防災についての知識が得られたと感じた。
- ・地域で顔のつながりがあり、聞きづらい事も話し合っていた。
- ・初めて参加しました。「いざという時に」具体的な地域防災、在宅避難について知ることができました。まちセンの連携も安心した。
- ・避難所運営委員に参加し、防災塾に参加することで色々リンクした。コロナが落ち着いたら訓練で区民にも情報共有していきたい。
- ・講話で聞いた内容を元に、想定される問題点を意見交換していたと思う。
- ・説明がわかりやすかった。

5 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと

	数		数
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	11	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。	7
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	13	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	1
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。	15	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	1
④地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた。	15		

6 今後の希望する「防災塾」の進め方について					
	数			数	
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	8	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明		8	
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	4	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演		12	
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	3	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合		5	
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	5	⑨その他（行政との防災事項に関する確認事項や確認会議）		1	
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	12				
7 地区防災計画制度がつけられたが、本制度の内容はご存知ですか。					
	数			数	
①地区防災計画作成のガイドラインを読んだことがある。	3	④言葉は聞いたことがあるが詳しくは知らない。		3	
②他所の地区で作成された地区防災計画を読んだことがある。	1	⑤全く知らない。		2	
③防災塾で説明を聞いたことがあり、ある程度は知っている。	4				
8 平成29年3月より、地区防災計画を区HPに掲載していますが、ご存知ですか。					
	①知っていた	②知らなかった			
数	4	8			
9 地区防災計画の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと					
	数			数	
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理	5	④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め		5	
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	3	⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加		6	
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声がけと対策方法に関する話し合い	6	⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）		4	
<その他>・有事に実効性のある動きを取る為、いろいろと学び、組織の在り方を再構築したい。					
10 防災塾に継続して参加したいと思いませんか。					
	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数	7	6			
11 「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。					
・初めて参加したが、具体的な備え方や災害時に起きうることを教えて頂き、大変役立つ内容だった。講師の話していた、災害時の子供の預け先があるといいというのなるほどと感じた。					
・在宅避難を中心にしたい気持ちが強くなった。					
・今回初めて参加した。次回も参加したい。 ・勉強させていただきました。					
・疎開避難は他所にて受け入れがされるのか。					
・もっと多くの人たちにこの情報が共有できる場所があればと思った。					
・大変参考になっているので、今後ともよろしくお願いします。					
・一番は「マネージャーの育成」が重要との言葉に励まされた。以前から知っていた事に新しい事実が加わり、強化された。					

防災塾 実施報告書

砧総合支所地域振興課
喜多見まちづくりセンター

(1) 実施日 令和4年9月6日(火曜日) 午前10時～12時

(2) 場所 喜多見東地区会館 第1・2会議室

(3) 参加人数 41名
一般 34名
喜多見あんしんすこやかセンター 2名
砧総合支所地域振興・防災 1名
砧総合支所保健福祉課 1名
喜多見まちづくりセンター 3名

(4) テーマ
川が氾濫しそう！あなたならどうする！？

(5) 実施内容
①開会挨拶(所長 宮戸 達彦)
②防災講話「水害への備え」
(砧総合支所 地域振興課 地域振興・防災 係長 内田翼)
②東京マイ・タイムライン作成
(防災ネットワークプラン代表 井上浩一 講師)
③VR体験会
(東京都 総務局 総合防災部 防災計画課)
④質疑応答

令和4年度 防災塾 当日の様子



防災講話



東京マイ・タイムライン作成



東京マイ・タイムライン作成



VR 体験会

アンケート結果（回答数 25人）

1 本日の講座はわかりやすかったか

- ①とても分かりやすかった 11人 ②分かりやすかった 11人
③分かりにくかった 1人 ④どちらともいえない 2人

【①または②と回答した理由】

- ・ハザードマップの見方が分かってよかった
- ・避難所と避難場所の違いなど、質疑応答の説明が丁寧でよかった
- ・一次避難所、二次避難所の違いと活用の仕方、避難のタイムスケジュールの組み方が分かった
- ・表にしてあり分かりやすかった
- ・お手伝いもあり、シールを貼っていくので分かりやすかった
- ・地震と水害のスピード感の違いなど説明が分かりやすかった

【③または④と回答した理由】

- ・野川仙川沿いに暮らしている約25万人の人の避難場所があるのか

2 マイ・タイムライン作成のポイントについて理解が深まったか

- ①よく深まった 6人 ②深まった 15人（二重回答1人）
③あまり深まらなかった 5人（二重回答1人） ④深まらなかった 0人

【①または②と回答した理由】

- ・目で確認出来て分かりやすかった、何をどういう順で見ていくか分かった
- ・マップをみて自宅の水害度が分かった
- ・チェックすべき災害情報が一覧になっていてわかりやすかった

【③または④と回答した理由】

- ・犬を飼っている、車で避難する場合、避難できる場所が確保できるのかが不明だった
- ・あまり現実的でない、実感がわかない

3 風水害への対策としてマイ・タイムラインを作る必要があると思ったか

- ①とてもそう思う 8人 ②そう思う 11人
③あまり思わない 5人 ④思わない 0人 ⑤回答なし 1人

【①または②と回答した理由】

- ・避難指示がでたら避難すると決めていても、それまでにかかる時間、やっておくことを知ることは大切だと思った
- ・安全避難する準備や心構えを常に考える機会になった
- ・災害はいつ起きるかわからないので心構えが必要のため
- ・具体的なイメージが分かった
- ・焦ると冷静な判断ができないためガイドがあると安心
- ・想像よりも具体的に感じられた
- ・日中一人でいるため
- ・一度避難所に行ってみようと思う

【③または④と回答した理由】

- ・風水害に対しては経験値がものをいうと思っているため
- ・あまり現実的でない
- ・表が見にくい、何を持っていくかも書きたかった

防災塾 実施報告書

砧総合支所地域振興課

砧まちづくりセンター

- (1) 実施日 令和4年11月6日(日曜日) 午前10時～午後4時
- (2) 場所 都立砧公園サービスセンター前
- (3) 参加人数
 一般 350名(砧公園への来場者)
 区職員、日赤奉仕団砧分団、成城消防団第五分団、目黒星美学園(教職員、生徒) 20名
- (4) テーマ
 防災フェスタ in 砧公園
 防災知識の裾野を広げるべく防災訓練への参加を意図していない幅広い世代への防災知識と地区防災計画等の普及啓発を目的とし、砧公園の来園者に広く防災の普及啓発を行う。

(5) 実施内容

コーナー名	実施団体
子ども向け防災屋台「きみのはじめてやってみよう！」	砧まちづくりセンター
「魔法の携帯トイレ」普及啓発	午前：日赤奉仕団砧分団 午後：目黒星美学園
避難所に関する研究発表	目黒星美学園
「ペットの防災」普及啓発	砧まちづくりセンター

※本事業は毎年砧まちづくりセンターと東京都公園協会砧公園サービスセンターで実施している「防災フェスタ in 砧公園」の一環として実施する。

〈各コーナーでの実施内容〉

- 子ども向け防災屋台「きみのはじめてやってみよう！」
 - ・時代の変化により災害時に必要なことにも関わらず子どもが経験したことのない以下の内容を体験してもらう。主に5つの体験をもらった。
 - ①マッチでろうソクに火をつける
 - ②灯油ポンプで水を移し替える
 - ③日本大学危機管理学部から公衆電話の模型を借用しその使い方を学ぶ
 - ④ロープワーク実演・訓練
 - ⑤成城消防団第五分団による応急救護、AED講習
 - ・これらは子ども向けコーナーとしていたが、主に保護者を中心とした大人からも使ったことがないという声があり、実際に体験する大人もいた。
 - ・成城消防団第五分団により、子供向けに特化した応急救護やAEDの使い方を学んだ。
 - ・ロープワークの実演は、子どもや順番待ちをしていた保護者や大人の来園者に実施してもらった他に、目黒星美学園の生徒や職員等も訓練を体験した。

●「魔法の携帯トイレ」普及啓発

- ・目黒星美学園と法人格砧町自治会で開発した「魔法の携帯トイレ」が日本赤十字東京都支部で公式のトイレとして採用されたことから、日赤奉仕団砧分団と目黒星美学園の生徒でその普及啓発を実施した。内容は吸収ポリマーや断臭袋などのトイレの資材を使って、「魔法の携帯トイレ」を製作してもらった。作ったトイレは持ち帰って備蓄物品としてもらった。
- ・午前中は日赤奉仕団砧分団がコーナーを受け持った。サービスセンターが砧公園の中心部から外れていることもあり、砧公園の利用者への呼び込みを積極的に行った結果、準備していたトイレ用の資材（100セット）が午前中のうちになくなるほどたくさんの方に普及啓発を行うことができた。
- ・午後は目黒星美学園の生徒と教職員が普及啓発活動を実施した。資材が午前中でなくなったため午後の分の資材を持参してもらった。

●避難所に関する研究発表

- ・トイレの普及啓発のほかに、避難所に関する研究成果の発表を目黒星美学園の生徒がパネルを用いて行った。

●「ペットの防災」普及啓発

- ・近年水災等が多く発生していることから区民が避難所を利用する可能性が増えることが予想されている。災害時のペットの取り扱いについて世田谷保健所からパネル等の教材を借用・展示し、災害時ペット危機管理士の資格を持つ区職員が説明するとともに、問い合わせに対しても対応した。
- ・砧公園内ということもあり、園内でペットの散歩をしていた多くの方に興味をお持ちいただき盛況だった。
- ・世田谷区の傾向として住宅やペットが多いことからペットを連れた住民が避難所に身を寄せることが考えられる。そのため、日ごろからのしつけの大切さなどを強調した展示・説明とした。

●まとめ

- ・来場者にはハザードマップや備蓄物品などの啓発物品をお渡しした。砧地区の地区防災計画も含め配布したため、より多くの方に地区防災計画を知ってもらうことができた。これにより、新たなアイデアなどが寄せられることも期待され、防災塾の目的である「地区防災計画のブラッシュアップ」も達成できたと考えている。
- ・今後災害が起こった際に、より快適な避難生活を送るための手段を幅広い世代の区民に伝えることができた。

